



# 御神木

# と僕

## 水掛の庭

久太郎町のひと街区の中に庭をつくる。  
 その中には一本の大きな榎が育っている。  
 そのふもとは何かを願う場所であり、  
 手を合わせ、水を掛ける。  
 これからの仕事のこと、家族のこと、健康のこと。  
 思いは水に託され、木を成長させる。  
 そして長い年月をかけ、さらに御神木となる。

## 水と生活

船場は生摩神とよばれる井戸の神様がまつられている。生命力、幸福と繁栄、清らかさを担う。また心斎橋には水掛不動というものが存在する。ビルの間のその空間は静かな時間が流れており、人はそこで何かを思い、水を掛け、手を合わせる。



水掛不動  
人の思いの積み重ねが育んでいる

## 敷地



大阪前船場久太郎町の一角が敷地である。ここは多様な建物が新旧入り乱れて存在しているため選んだ。建物の存在は、近隣住人の性格を表す。また久太郎町には生摩（いかすり）神社があり井戸の神が祀られている。生摩とはもともと居場所を守るという意味を持っていたそうだ。大阪の中心ということもあり当門前をきっかけに町が発展した。

## 植物という大きな時間の系に乗せる

樹木は時間をかけて、その大きさを獲得する事になる。つまり、大きな木には過去からの歴史を持つ。ここで御神木として育てる榎は成長までに約40年かかると言われている。人で言えば約一世代に当たる。

約40年の間、親から子へ時代は受け継がれ、また建物も世代に合わせて生まれ変わる。歴史を持つ木は大事にされ周辺に影響を与える。

